



# Charitable Trust

## 年次報告書

2021年 - 2022年



# 目次

## 1.はじめに

議長挨拶.....	5
MOLチャリタブルトラストの紹介.....	6
MOLチャリタブルトラストの目的.....	6
運営委員会メンバーの紹介.....	8

## 2.募集要項

第一次募集の紹介 .....	11
2020年から2022年までの歩み.....	11
助成給付プロジェクトと各団体の紹介.....	12
不測の事態により未着手となったプロジェクト .....	20

## 3.現場支援

2021-2022年活動報告 .....	23
----------------------	----

## 4.助成団体代表者の声

## 5. MOLチャリタブルトラスト関連掲載記事

# はじめに

## はじめに

### 議長挨拶



パートナーの皆様へ

このたびは、MOLチャリタブル・トラスト（当基金）初の年次報告書をお届けできることを嬉しく思います。2021年6月にモーリシャスで設立されました当基金は、地域社会のニーズに応え、持続可能な開発を促進し、環境保護に貢献することを目的としています。

商船三井は2020年6月からモーリシャスに進出しています。現地での活動を加速させるため、商船三井はまず、モーリシャスに現地法人「MOL (Mauritius) Ltd.」を設立しました。MOL (Mauritius) Ltd.は、モーリシャスにおける当社の活動を維持し、国の経済成長に貢献するために、再生可能エネルギー分野の新技术など、可能性を秘めた経済分野の研究に取り組むとともに、そして商船三井の社会・環境活動を促進するため、モーリシャス国内での公益活動に特化した基金「MOLチャリタブルトラスト」を設立することに至りました。

当基金の使命は、国連が定めた地球のための「持続可能な開発目標（SDGs）」に基づいています。SDGsと、モーリシャス国内のニーズを考慮して、当基金が支援する主なカテゴリー10項目を掲げています。2021年9月に現地NGOや教育関連団体からの第一次提案募集を開始し、当基金の使命に最もふさわしいプロジェクトを選定しています。商船三井は、2020年より最大6年間、年間約5000万円（約1700万モーリシャスルピー）、総額約3億円の資金拠出を予定しています。

第一次（2021-2022年）募集では、助成期間の1年間で約20のプロジェクトに、1件あたり年間約100万モーリシャスルピーを助成する予定でした。募集に対し、100件を超える応募があり、そのうち50%以上が島の南東部に関連したプロジェクトでした。選考基準は以下の通りです。

- 初年度は南東地域のプロジェクトを優先的に選考する
- 応募プロジェクトの目的が、当基金の目的と一致している
- 応募プロジェクトに持続可能性が見込める
- 団体の財政面でのプロジェクト遂行能力がある

選考にあたり、当基金は「被災した地域社会の修復や再生、再建のためのプロジェクトを促進することで、貧困や社会的に恵まれない環境におかれている人々に希望を与える」ことを目的とし、モーリシャスに拠点を置いて活動する国際組織、「I61 Foundation」に協力をいただきました。当基金が目指したのは、透明性の高い方法を用い、優れた案件を選定することでした。

「I61 Foundation」は、当基金の選考基準に基づき、各プロジェクトを100点満点で採点しました。その後、当基金の運営委員が、当基金の目的に最も合致するプロジェクトを選定し、最終選考に残ったNGOの現地視察を「I61 Foundation」が行いました。優れたプロジェクトが非常に多かったため、運営委員会では助成プロジェクトの数を20から26に、総助成額を2000万モーリシャスルピーから2450万モーリシャスルピーに拡大することを決定しました。

助成対象プロジェクト決定後は、「I61 Foundation」とともに、各団体の事務手続きの支援、定期的な現地訪問、プロジェクト遂行のための現地ネットワークの構築、共通の目的を持つ団体を集めたワークショップの開催など、それぞれの団体の目的達成に向けた支援を行っています。特にワークショップの開催により、団体間の相乗効果が生まれ、それぞれのプロジェクトに付加価値を与える、相互支援的な動きに繋がりました。

全体としては、初年度は、当基金と助成団体にとっては大きな成功を収めたと考えています。プロジェクトによっては、主に行政手続きや必要な許認可の取得面で、長い時間を要し、困難を経験したものもありました。そのため、「I61 Foundation」の協力の下、何度か当基金が支援にあたる必要がありました。しかし、こうした遅れにもかかわらず、ほぼすべての選定されたプロジェクトは計画通りに進んでおり、中には目標を上回る成果を挙げたものもありました。プロジェクト遂行のための、必要な許認可の取得に課題を抱える団体は、ごくわずかです。

また、2022年9月に第二次募集を開始しました。ここでも100件を超える応募がありました。選考は開始され、2022年12月に完了する予定です。選定されたプロジェクトは、2023年1月に発表される予定です。

最後に、この1年を支えてくださった皆さまに、心から感謝申し上げます。

山下 悟郎  
MOLチャリタブルトラスト  
議長

## MOLチャリタブルトラストの紹介

MOLチャリタブルトラストは、世界の海運をリードする、総合物流グループである商船三井によって、2021年に設立されました。MOLは、モーリシャスの自然環境回復や、同国の人々への支援を目的とし、多くの専門家チームを派遣し、生態系の回復と、地域社会の人々への支援に取り組んでいます。

2020年9月、商船三井はモーリシャスの支援のために8億円を拠出することを決定し、同年10月には、モーリシャスでの取り組みをより加速させるために、現地法人「MOL (Mauritius) Ltd.」を設立しました。また、モーリシャスの支援をより適切に執行するための基金の活用を決定し、2021年6月21日に「MOLチャリタブルトラスト」（当基金）を設立しました。MOL (Mauritius) Ltd. は、当基金の活動支援にとどまらず、モーリシャスにおける、グリーンエネルギー関連のビジネス事業などにも取り組んでいます。当基金は、商船三井が拠出する資金の一部を原資としており、総額約3億円の拠出を予定しています。並行して、商船三井は日本でも5億円の拠出を予定する基金「公益信託商船三井モーリシャス自然環境回復保全・国際協力基金」（本邦基金）を設立しています。

両基金は、モーリシャスの自然環境回復、保全を目的としたプロジェクトや、同国の地域社会発展への支援を目的としています。当基金では地域に根ざしたプロジェクトに注力する一方、本邦基金ではより長期的で、大規模なプロジェクトへの支援を想定しています。

当基金は、7名の運営委員（うち3名はモーリシャス人）によって運営されています。今後5年間の活動資金として、年間約5,000万円の助成を予定しています。

## MOLチャリタブルトラストの目的

モーリシャスにおける当基金の使命は、以下の10の重点目標で構成されています。これらの目標はそれぞれ、国連が定めた人類の未来に向けた「持続可能な開発目標」に対応しています。

### 1. マングローブ保護・育成・保全

マングローブは、自然豊かな沿岸の保全に重要な役割を担っています。浸食防止に役立ち、ラグーンに生息する多くの生物の生育場にもなっています。当基金の目標は、既存のマングローブ林を保全し、新たなマングローブ林を育成することです。

国連の持続可能な開発目標14「海の豊かさを守ろう」

### 2. サンゴ礁回復・保全

モーリシャスのサンゴ礁は世界最大規模で、全長約300kmに及びます。しかし、この素晴らしい生態系も、地球温暖化、汚染、外来種など、多くの脅威に晒されています。当基金では、この貴重な環境を回復・保全するためのプロジェクトを支援しています。

国連の持続可能な開発目標14「海の豊かさを守ろう」

### 3. 渡り鳥の保護・希少留鳥の保護・研究

モーリシャスには、「Mauritian Kestrel (モーリシャスチョウゲンボウ)」、「Mauritian Cardinal (モーリシャス猩々紅冠鳥)」、「Cateau Vert (カトーヴェール)」、「Chauve souris Rousette (シヨーヴ・サリス・ルセット)」など、絶滅の危機に瀕しているいくつかの固有種が生息しています。当基金は、これらの種の保護プロジェクトを支援しています。

国連の持続可能な開発目標15「陸の豊かさを守ろう」

### 4. 文化財保護、活用

モーリシャスは独特な歴史と並外れた文化の多様性を持っています。島のあちこちには、時を経た貴重な文化遺産が数多く残されています。これらの遺跡を保存し、保全することは、過去の遺産を未来に繋ぐ人類の責務であると同時に、観光資源としての役割も担っているのです。

国連の持続可能な開発目標11「住み続けられるまちづくりを」

### 5. 経済協力 (漁業・水産業支援、観光支援を含む)

モーリシャスの主要産業は、漁業と観光業です。モーリシャスではこれらの産業に依存している家庭も少なくありませんが、近年これらの産業は弱体化しています。当基金は、トレーニング、環境調査、潜在的な機会、インフラ建設などを通じて、これらの産業を復活させるプログラムを支援しています。

国連の持続可能な開発目標8「働きがいも経済成長も」

### 6. エコツーリズム、エコロジー啓蒙活動支援

エコロジーは、特定の脆弱な生態系の保全に不可欠であるだけでなく、近代的でダイナミックな新しい経済セクターの開拓を可能にすることができます。当基金ではこの分野を育成するプログラムを推進することは、モーリシャスの未来への投資を行っていると考えています。

国連の持続可能な開発目標11「住み続けられるまちづくりを」

### 7. 社会福祉を目的とする事業 (含むモーリシャス学校教育支援)

社会的に恵まれない環境にいる方々への教育や支援は、当基金の最も重要な目的の一つです。貧困層が住む地域は島中に分布し、食料を海に頼っているところも少なくありません。若者への教育や大人への支援を通じて、より良い未来を提供することを目指しています。

国連の持続可能な開発目標1と4「貧困をなくそう・質の高い教育をみんなに」

### 8. クリーンエネルギー関係、再生エネルギー関連活動

商船三井は数年前から、世界的にも多くの燃料を消費する海運業界として、再生可能燃料の開発に取り組んでいます。モーリシャスでも同様のプロジェクトを支援することで、より自然に優しい社会の実現に貢献したいと考えています。

国連の持続可能な開発目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

### 9. 災害発生後の人道的支援

自然災害や人為的な災害は、最も脆弱なコミュニティを直撃します。そのため、災害時には迅速かつ組織的な支援が不可欠です。モーリシャスに設立して以来、当基金はこの人道的活動を促進し、効率化するための幅広いサポートネットワークを構築してきました。

国連の持続可能な開発目標1「貧困をなくそう」

### 10. インフラ整備活動

インフラの整備は、上記の目標達成を容易にします。当基金はすでにこの地域でいくつかのインフラ整備プロジェクトを支援しており、今後もモーリシャスでのミッション達成に多大な資源を投入していく予定です。

国連の持続可能な開発目標11「住み続けられるまちづくりを」

## 運営委員会メンバーの紹介

### 山下 悟郎氏 (議長)



山下悟郎氏は1993年、成城大学法学部卒業後、ナビックスライン（現商船三井）に入社。豊富な経験の中で、タンカーや自動車船など、様々な事業部門のエキスパートとして貴重な営業経験を積んできました。

欧州や南米で海外勤務を経験し、その知識と経験を活かして自動車船事業の支援にあたりました。2019年、港湾事業・ロジスティクス事業部事業開発チームリーダー長を拝命。

「WAKASHIO」号の座礁事故後、2020年8月、MOLの現地代表としてモーリシャスへ赴任。現在、MOL (Mauritius) Ltd.の代表であり、現地で地域社会への支援や環境保護を目的とした本基金、MOLチャリタブルトラストの議長も務めています。

### MARC DALAIS (マーク・ダレ)氏 (運営委員/モーリシャス)



マーク・ダレ氏は、モーリシャスとマダガスカルで事業を展開する物流・海運代理店グループ「Celero Group」の創業者であり、現在の最高責任者です。モーリシャス出身のダレ氏は、南アフリカで大学を卒業後、海運業でキャリアをスタートさせました。

その後、パリの大手国際物流グループに勤務し、モーリシャスの上場コングロマリット企業でロジスティクス・海運・航空部門のゼネラルマネージャーを務めました。

ダレ氏はまた、モーリシャスのフリーポート事業のパイオニアである企業やモーリシャス輸出協会 (Mauritius Exporters Association) など、さまざまな業界団体や理事会でも活躍しています。現在は、世界20カ国で活動する大企業、CIELグループの役員を務めています。また、社会福祉と教育にも熱心に取り組んでおり、ライトハウス小中学校や、社会問題の解決を目指す企業である「The Good Shop」の創設にかかわった基金「Lighthouseチャリタブルトラスト」の創設者でもあります。

### Dharmendra Ellayah (ダルメンドラ・エラヤ)氏 (運営委員/モーリシャス)



ダルメンドラ・エラヤ氏は、30年以上政府機関に勤め、退職後はNational Disaster Management Center (NDRRMC: 国家防災センター) に勤務していました。現在は、災害リスク管理 (DRM)、気候変動、環境保護などの分野で独立したコンサルタントとして活躍中。インド空軍で電子工学と電気通信のディプロマを取得。モーリシャスにおけるDRMの法的、制度的、行政的、運営的枠組みの構築に尽力し、現在はアフリカのDRM、早期警報システム、その他の関連分野で政府への助言を行っています。

慈善活動に熱心なエラヤ氏は、ホームレスの支援を行うNGO「Association Pour Personnes En Larmes (APPEL)」の創設者であり、非営利社会的企業「The Good Shop」の理事も務めています。

### JIMMY HARMON (ジミー・ハモン)博士 (運営委員/モーリシャス)



ジミー・ハモン博士は現在、カトリック教育局副局長兼セカンダリー部門責任者。南アフリカのUniversity of Western Cape (西ケープ大学) で言語学の博士号を取得。研究テーマは、言語、歴史、記憶、アイデンティティの構築。

2011年から2019年にかけて、ハモン博士は、植民地時代から

今日までの奴隷制と年季奉公の遺産を調査するために2008年に政府が設立した「Truth and Justice Commission」の190の勧告の一つである「奴隷制博物館」設立の公的支援に携わってきました。

2014年から2016年まで、ハモン博士は、当時の芸術文化省が後援する、アフリカ、マダガスカル、クレオール文化の振興を目的とした「Nelson Mandela Centre for African Culture」基金の理事も務めていました。

### 田中 利明氏 (運営委員/日本)



田中利明氏は、現在、商船三井代表取締役副社長執行役員。代表取締役社長の補佐として、戦略全般を担当。環境・サステナビリティ戦略部、コーポレートマーケティング部、コーポレートコミュニケーション部を管掌し、チーフエンバイロメント・サステナビリティオフィサーを務めています。

1984年3月、一橋大学社会学部卒業。同年4月に商船三井に入社し、1999年6月に石炭・鉄鉱石輸送船課長に就任。ドライバルク事業における豊富な実務経験を有します。

2003年10月、ロンドンにて Mitsui O.S.K. Bulk Shipping (Europe) Ltd.のゼネラルマネージャーとして、大西洋市場での石炭・鉄鉱石船事業を担当し、2011年6月石炭・鉄鉱石輸送船部長を拝命。2014年6月商船三井執行役員、2017年4月常務執行役員、2021年4月商船三井専務執行役員を務めてきました。

### 島 裕子氏 (運営委員/日本)



島裕子氏は、2022年4月商船三井の理事に就任。環境・サステナビリティ戦略部を担当しています。

1990年3月、東京女子大学卒業。同年4月に大阪商船三井船舶(株) (現商船三井)に入社し、バルクキャリア部門でキャリアをスタートさせました。数年後、コンテナ船事業部へ異動。2002年7

月、営業調査室に着任。2014年7月、経営企画部CSR・環境室長を経て、2018年4月、新規・環境事業推進部長に就任しました。

2021年4月から2022年3月の間、環境・サステナビリティ戦略部長を務めました。

### 田村 城太郎氏 (運営委員/日本)



田村城太郎氏は、2022年4月、商船三井常務執行役員に就任、経営企画部、業務改革、構造改革を担当しています。

1991年3月、上智大学文学部卒業。同年4月に大阪商船三井船舶(株) (現商船三井)に入社し、港湾・流通部フォワーディング事業でキャリアをスタートさせまし

た。数年後、バルクキャリア部門に移り、2年間のロンドン赴任後1997年にコンテナ船事業に異動し、2001年から2014年まで香港のMOLグループ会社に出向。長年にわたり、運航、用船、コンテナ事業における管理・イールドマネジメントなど多様な職務を経験しました。

2014年、商船三井本社に戻り、自動車船部門を担当。3年後、コンテナ船事業に復帰し、ロンドンのMOL (EUROPE AFRICA) LTD.に出向。2018年、OCEAN NETWORK EXPRESS (EUROPE) LTD.ではマネージングダイレクター兼ヨーロッパ・アフリカエリア代表を務めました。

2020年、商船三井本社に戻り、経営企画部長に就任、2022年、MOL常務執行役員に就任しました。



# 第一次（2021年-2022年） 募集要項

## 第一次（2021年-2022年） 募集要項

### 第一次募集の紹介

2021年9月、MOLチャリタブルトラスト（当基金）は、モーリシャスで初めての提案募集を発表しました。今回は、20件程度のプロジェクトに、1年間で100万ルピー程度の資金を提供する予定でした。100件以上の応募があり、そのうち50%以上が南東地域からの応募でした。選考基準は以下の通りです。

- 初年度は南東地域のプロジェクトを優先的に選考する
- 応募プロジェクトの目的が、当基金の目的と一致している
- 応募プロジェクトに持続可能性が見込める
- 団体の財政面でのプロジェクト遂行能力がある

選考にあたって当基金では、貧困や社会的に恵まれない環境におかれている人々に希望を与え、被災した地域社会を修復、再生、再建のためのプロジェクトを促進することを目的とする国際組織「I61 Foundation」の協力を受けました。

当基金が目指したのは、透明性の高い方法を用い、優れた案件を選定することでした。まず、基金の目的に最も関連性の高いプロジェクトを事前選定し、最終選考に残った団体の現地視察を「I61 Foundation」が行いました。優れたプロジェクトが非常に多かったため、運営委員会は助成プロジェクトの数を20から26に、総助成額を2000万ルピーから2450万ルピーに拡大することを決定しました。

### 2020年から2022年までの歩み

- 「WAKASHIO」号座礁事故後、MOLは専門家チームを派遣し、地域社会と復興に支援を行う  
- 2020年
- MOLは、地域・復興支援のために、8億円（約3億モーリシャスルピー）を決定  
- 2020年9月
- MOLは、モーリシャスに「MOL (Mauritius) Ltd.」を設立  
- 2020年10月
- モーリシャスに「MOLチャリタブルトラスト」を設立  
- 2021年6月
- 第一次募集  
- 2021年9月7日-9月27日
- 採択されたプロジェクトの発表/覚書の締結  
- 2021年12月10日
- 初年度助成の公式年度末  
- 2022年12月10日



## プロジェクトと各団体の紹介 (第3四半期時点)

### 1. Action Familiale

マエブール近郊のヴィル・ノワール地区に住む恵まれない人々ためのライフスキルトレーニングと支援をおこなっています。

#### 活動・成果

この1年間に数々の活動を行いました。

- Aider mon enfant à grandir (わが子の成長を見守る) (3セッションと1評価ミーティング)
- ライフスキルトレーニング (評価会議1回)
- カップルトレーニング (全5回)
- R.A.D.O (全8回、親子で祝う閉会式1回、評価会1回)

#### 効果

これらの活動を通じて、Action Familialeはヴィル・ノワール地区に大きな影響を与えています。彼らは教育の取り組みを支援し、トレーニングによって親は親としての役割をより理解し、子どもたちのことをより理解できるようになりました。現在では、家庭内のトラブルにもうまく処理できるようになっています。また、子どもたちの行動にも変化が見られ、驚くほど礼儀正しく、尊敬の念を持ち、積極的に行動するようになりました。これは、家族や学校での交流が改善されたことを意味します。



そのほか、リビエール・デ・クレオール・パブリック・ビーチの清掃活動も行い、約50名のボランティアの協力のもと、合計700kgのゴミを回収しました。また、マングローブの重要性に関する啓蒙活動や、アンス・ジョンシェなどでの清掃活動も行いました。



#### 効果

講習に参加した人たちが、その周囲の人たちの生活にも確実に影響を与えています。パティスリーコース、エコバッグトレーニング、バックヤードガーデニングプログラムに参加する女性たちは、収入を得ながら貯蓄できるようになったのです。

### 2. Association pour le Développement Durable (ADD)

南東部地域の3つの村で、環境意識向上、海岸保護のための技能訓練、エコロジーグッズや農産物の生産、庭や野菜畑の開拓、小規模ビジネスの立ち上げなどを通じて、海岸地域のコミュニティを支援しています。



#### 活動・成果

基金の協力のもと、1年間に数々の活動を行いました。その一部を紹介します。

- SME Rose Belleでエコバッグ・コース12回実施、12名が受講
- SME Bel Airでパティスリーコースを11回実施、12名が受講
- SME Bel Airでパティスリーコースの継続的な実施、12名が受講
- バックヤードガーデニングコース、17名が受講

### 3. Biodiversity Preservation

環境問題や重要な生態系に被害をもたらす原因に対する意識を高める、学生によるエコリテラシー・ツールキットの開発を行っています。



#### 活動・成果

同団体にとって、この1年は非常に充実した年でした。基金から割り当てられた資金により、次のようなことができました。

- Loreto College Mahébourg (ロレットカレッジ・マエブール)、Loreto College Bambous Virieux (ロレットカレッジ・バンブー・ヴィリユー)と共同で、カードゲーム開発のためのQ&Aワークショップを開催。
- Loreto College MahébourgへのコンポストワークショップおよびLoreto College Bambous Virieuxに養蜂ワークショップを開催するために、教育ファームへの出前授業を実施
- Loreto College Bambous Virieuxの養蜂、イル・ド・ドラ・パスへのエコツーリズムの旅、固有種の屋根型庭園といったプロジェクト開発のアイデアに協力
- ウェブサイト上に電子図書館の開設
- 3折りのエコリテラシー・ツールキット制作のアイデアプロセスに関する映像制作のためのイベント撮影
- Loreto College MahébourgとLoreto College Bambous Virieuxの賛同校を募集



#### 効果

これらの様々な活動を通して、学生をチェンジメーカー、リーダー、意思決定者にする事で、学生による学生と地域社会のための革新的なエコリテラシー・ツールキットの開発に向けて取り組むことができました。このような学生主体のツールキットは、学生を巻き込み、一緒に問い直しながら、知識、経験、課題を共有し、新しい持続可能なアイデアを生み出すアイデアプロセスになっています。

本プロジェクトは、より多くの学校に浸透して雪だるま効果を生み出すことを視野に入れ、協働プラットフォームで学校を結びつけることでコラボレーションを促します。最終的には、持続可能な地域社会を構築するというビジョンに基づき、実施に向けたアイデアを審査することが可能になりました。

### 4. Bonheur Associé aux Enfants

マエブールのシテ・ボーヴァロンで、恵まれない環境にある65人の子どもたちに毎日の昼食を配給しています。



#### 活動・成果

同団体は、基金からの支援のもとに、この1年間で数々の活動を行い、地域社会に大きな成果をもたらしました。

- ランチバックを毎学期、毎回配布
- ブルーベイのビーチで清掃活動を実施
- Caudan Arts Center (コーダン・アーツ・センター)でのピアノコンサート鑑賞

#### 効果

同団体は、基金の支援により家庭の経済的な負担軽減のお手伝いをすることができました。満腹で学校に行けることで、子どもたちの出席率が上がり、授業に集中できるようになったと、同地域の学校の校長先生から報告を受けています。

## 5. Caritas Ile Maurice

脆弱な地域社会に対する技能開発プログラムの実施を行っています。（主に識字、生活技能、製パン、調理等）



### 活動・成果

同団体は、この1年間、数々の活動を行いました。

- トル・ド・デュース、ベルエア リビエール・セッシュ、マエブルで識字率向上コースを開催、55人が参加、達成率76%
- マエブルとビューグランドポートで45名の参加者を対象に「ライフ・リーダーシップ・スキル」を実施。また、トル・ド・デュース、ベルエア リビエール・セッシュからは38名の参加者が登録。
- 30人規模のパティスリーコースのためのモチベーションコースを開催。

### 効果

同団体は、終了したプログラムをもとに、参加者が自分自身で目標や優先順位を設定し、さらなるスキルアップに意欲的に取り組んでいることを確認しました。識字率向上コースは、受益者に心理的な影響を与え、「私にはできないだろう」から「今なら出来る！」という意識の変化が見受けられました。受益者は自尊心を取り戻し、自分をより大切にすることを学び、人生に自信を持つようになりました。

## 6. Collège Lorette de Mahébourg

基金の助成により、経済的に困難な状況にある家庭の学生を支援するため、食事の寄付、教材の寄付、個人レッスンや教育旅行への資金提供などのプロジェクトを実施しました。



### 活動・成果

この1年間、大学では数々の活動を実施しました。

- 時間外プログラムの学生のために3名の補習教育者を採用
- 連帯クラブに所属する学生への総合的な毎日の食事の提供
- エクステンションプログラムの学生を対象とした遠足を企画
- 学校備品やデザイン画材を購入し、自身で用意ができない学生へも提供した

### 効果

受益者の学生一人ひとりに毎日食事が提供され、最高の一日をスタートさせることができます。同プログラムを通じて、子どもたち一人ひとりの親は貯蓄をすることができました。親たちは、子どもたちの毎日の食事に充てるお金が十分にありません。親にとっては安心でき、子どもにとっては勉強に集中できる環境です。子どもたちに「必要なもの」を提供したときの子どもたち一人ひとりの表情は、計り知れない喜びがあります。

## 7. EcoMode Society

「WAKASHIO」号の座礁痕に植え付けるサンゴを運搬するための専用車両を購入。

### 活動・成果

上記活動を行うため、2022年1月31日、トヨタハイラックス・ダブルキャブ4x4取得



### 効果

この車両は、サンゴ保全の活動の実施に大きく貢献し、材料等の物流を向上させました。ボランティアだけでなく、現場から事務所や後方へのサンゴや機材の運搬をより効率的に支援することで、サンゴ再生活動の規模を拡大することができました。

## 8. Eco-Sud

食料自給を促進するための、南東部地域の脆弱な地域社会のためのアグロエコロジー・システムの開発を行っています。

### 活動・成果

- アグロエコロジー・トレーニングと連帯ショップにて117人が受講
- 受益者が自らの農産物を使って調理する方法を教えるための調理トレーニングの開催
- Action Familialeと連携し、家庭へのフォローを実施

### 効果

プログラムを通じて、受益者は学んだ技術を家庭で再現するためのノウハウを得ることができました。

- MITD Mahébourg、MITD Esnouf、Youth with Disabilities Empowerment Platformの学生に対し、F.A.L.C.O.Nモデル農場（Bois Pignolet Terre Rouge）でアグロエコロジー農法に関する1日トレーニングを実施
- 灌漑用水を最小限に抑えるためのアプローチであるウィッキング・ベッド技術に関する理論的なトレーニングも実施



### 効果

自分たちで苗を作ることができるようになり、受益者は家庭でこれを再現することができます。F.A.L.C.O.Nは、YWDEP受益者に年末手当の代わりにホームキットを提供し、家族に直接的な効果をもたらす、自ら野菜を作り、家計への負担を減らすことができるようにする予定です。さまざまな種類の植え付け技術を用いることで、さまざまなシナリオをカバーし、野菜の生産を成功させることで、より家計への負担を削減することができます。さまざまな農業団体（研究を含む）を訪問することで、受益者はさまざまな種類の農業やキャリアの機会に触れ、彼らや彼らの地域社会の将来に貢献することができるのです。

## 9. F.A.L.C.O.N Association (旧 Falcon Citizen League)

南東部地域の若者に同行し、庭や野菜畑を作るためのアグロエコロジー・トレーニングを行っています。青年スポーツ省との連携により、地域にユースクラブを開設する予定です。



### 活動・成果

同団体は昨年、数々の活動を行いました。

- Mahébourg Espoir、MITD Mahébourg、MITD Esnouf、Youth with Disabilities Empowerment Platform各団体へ苗の生産に関する実習を実施
- Mahébourg EspoirとMITD Mahébourgでは、有機栽培のレイズドベッド（Lasagna Technique）の準備に関する実習を実施
- MITD EsnoufとYouth with Disabilities Empowerment Platformでは、緑地がないため、鉢植えや瓶詰め作物生産（コンテナ栽培）を優先して実施
- ウータンにあるResearch Agricultural Unit of FAREIへの視察を行い、農業分野における新しい研究についての知識を深めるとともに、農業機関と学生との間に重要なネットワークが構築された



## 10. Fondation Ressource et Nature (FORENA)

マングローブやその他の有用および/または絶滅危惧種の植物の栽培と実施のための南東部地域の女性のトレーニングを行っています。



### 活動・成果

苗床の建設と設置は現在進行中です。並行して、NGOはすでにこのプロジェクトのために15人の女性の受益者を決定し、植物学者の協力を得て研修のカリキュラムを作成しました。

### 効果

堆肥化施設を備えた苗床を設置し、植物の繁殖や堆肥化、苗床の管理に関するトレーニングを行うことで、女性の経済的自立支援に貢献し、起業家や雇用を得る可能性も出てくるでしょう。そのため、マングローブだけでなく、他の有用な植物も生産する苗床の必要性に応えるプロジェクトです。

## 11. La Chaux Mahébourg Academy Football Club (LCMAFC)

シテ・ラ・ショーの若いサッカー選手のためのスポーツ用品とコーチへの支援。



### 活動・成果

週3回のトレーニングセッションを開催しています。

- 子ども62名とコーチ5名分のサッカー用品・備品を購入
- 他のサッカークラブとのサッカー競技会の実施
- コーチは全員、モーリシャスサッカー協会（MFA）のトレーニングを受けて資格を取得し、子どもたちをサポート
- シテ・ラ・ショーにて、子どもたちにユニフォーム・サッカー用品を配布するセレモニーを実施



### 効果

子どもたちは、学校で学ぶことに興味と意欲を持つようになります。学校での生活、学習の態度が良くなければ、サッカーの練習に参加できなくなることを彼らは知っています。LCMAFCは、規律、敬意、良い振る舞いを重視しています。子どもたちは夜遅くまで路上にいないこと、毎日学校に行き、毎週体を動かしています。よって、子どもたちはさらに健康的になり、トレーニングで友達を作り、社会性を向上させています。

子どもたちが訓練を受けている間、親は家事に集中する時間があります。また、自分の時間も確保でき、子どもが何かを成し遂げると誇りを持つことができます。以前は子どものためにサッカーの試合の用具を揃える余裕のない親もいたのです。

## 12. Marine Megafauna Conservation Organisation (MMCO)

南部地域の養殖場またはイルカやホエールウォッチングのための商業ダイバー50人の養成を実施。

### 活動・成果

MMCOはプロジェクトを完了しています。1年間の活動の一部を紹介します。

- 3バッチのトレーニングが終了。60名の参加者のうち55名がプログラムを無事終了
- 55人がダイビング検定1級を取得
- 55人の受益者が海洋環境とホエールウォッチングに関する教育コースを受講



### 効果

プログラムを通じて、参加者は海洋生態系、生物多様性、人間の影響に関する知識を得て、より良い理解を得ることができました。参加者の意識も変わり、より環境に配慮するようになりました。そして効果は、短期、中期、長期にも及びました。

- 自然資源の保全と責任ある利用を、地域の住民たちが理解できるようになった。
- 当プログラムの参加者とその家族によって、若い世代へ知識の伝達が行われるようになる。
- ブルーエコノミー事業への参加に向けた展望を切り開く基盤の提供ができた
- 地域社会への水中活動の推進により、国内観光の充実を図ることができる。

## 13. Mauriwood Film Industry Artists Association

「WAKASHIO」号座礁事故後の生態系の保全と再生をテーマにしたドキュメンタリー「Island Nature Reborn (島の自然がよみがえる)」を制作しています。

### 活動・成果

ドキュメンタリーの予告編を完成させ、編集・脚本・制作に着手しています。

- ドキュメンタリーの撮影と作曲のための機材を取得
- データ収集を完了



### 効果

「WAKASHIO」号座礁事故後に集まったNGOがこれまで行ってきた活動を網羅することが目的です。いくつかのNGOの努力とその声を世界に発信していきます。

## 14. Mission Verte

南東部地域での廃棄物管理とリサイクルに関する意識向上を目指しています。その方法として、地域の子どもたちとの教育セッション、意識向上ビデオの制作、地域に4つのリサイクルボックスを設置、Precious Plastic (プレシヤス・プラスチック社)と共同でリサイクルグリーンアンバサダーを発足させました。

### 活動・成果

同団体は、この1年間に数々の活動を行いました。

- リサイクルボックスを地域に4台設置
- Precious Plastic Mauritiusと共同で啓発活動を実施。
- マエブールの海岸道路とビーチの清掃を実施
- Precious Plastic社との協働によるプラスチック回収・啓蒙活動 (450人の受益者達成)



### 効果

リサイクルグリーンアンバサダーは、Precious Plastic社の協力を得て、Mission Verteが実施する意識向上・啓発セッションに付加価値を与えるものでした。また、その他啓蒙活動や清掃などの啓蒙活動も、地域の住民だけでなく、全国レベルで環境保全のための教育が行われ、人々がその経験を共有することで、良い効果を上げています。



## 15. Mouvement Bien-Être de Cité La Chaux

シテ・ラ・ショーの漁師がラグーン内ではなく外洋で漁ができるよう、1隻の船を取得します。



### 活動・成果

同団体が基金を通じて取得した「MOL VANSOUET」号の進水式を行いました。現在、船上で受益者に対するトレーニングが行われており、漁船が正式に登録されると、同団体は漁民のための協同組合設立の手続きを開始します。

### 効果

プロジェクト開始以前、受益者はすべて非正規労働者で、ラグーンでのみ漁を行い、またボートをレンタルで借りなければならず、ボートの空き状況にも左右されていました。週に2、3回しか働かず、船のレンタル代と燃料油代を払えば、あとはほぼ無収入という悲惨な状況でした。

プログラムを通して、彼らは船を借りることなく、毎日収入を得られる安定した労働者となったのです。これで、ラグーンの内外を問わず、好きなときに漁ができるようになりました。受益者は、恒久的な収入を得て家族を養うことができるようになり、生活の質も向上します。

## 16. Pointe d'Esny Sanctuary Foundation

ポワント・デスニーとマエプールの地域社会を巻き込み、エグレット島周辺の「Zone de Conservation Marine Volontaire (自主的海洋保全地域)」の設立を目指しています。



### 活動・成果

同プロジェクトの一環として、漁師、漁船業者、NGOとのミーティングは8割が終了しています。

### 効果

8割方終了した会議を通して、多くの情報が集まりました。これらの情報と、その後の関係者会議が、自主的海洋保全地域の設立が可能かどうかの最終判断の助けとなるのです。

## 17. Precious Plastic Mauritius

ポワント・ジェロームに準工業用リサイクルプラットフォームを設置します。

### 活動・成果

この1年で、数々の成果を上げました。

- ポワント・デスニー地区で週1回、プラスチック、ガラス、缶の回収を実施
- 障がいのある子どもたちのための協会と協力して、リサイクル素材を使った工作活動を実施
- 運用改善（機械類の警告表示、活動記録・文書化）
- イースター休暇中のポワント・ジェローム・ユース・トレーニングセンターでの同団体の活動の参加者は450人（12〜70歳）に達しました。
- 自転車用解体機の完成
- Mission Verteとの協働によるリサイクルに関する教育セッションの開催



### 効果

ガラス、プラスチック、缶の回収量も増えており、近隣住民の意識が向上していることがわかります。プロジェクトは、ひとたび支援や設備が提供されれば、人々はより積極的にリサイクルを行うようになることを実証しています。子どもや学生たちは、環境の観点から、またリサイクルやアップサイクルの可能性から、リサイクルへの関心を高めています。

## 18. RESPECT

有機農法による温室野菜の生産と、在来野菜の生産による伝統農法の再生のための双方向トレーニング、および受益者がオンラインプラットフォーム「KIBAZ」で農産物を販売するための支援を行っています。



### 活動・成果

同団体は、数々の活動を行い、成果を上げてきました。

- 6つのNGOから143名の受益者が参加し、理論トレーニングの95%が終了。
- トレーニングセンターとR&Dグリーンハウスの建設が進行中です。
- 野菜作りを通じた起業のための再現性のある学習は、すでに対象団体で始まっています。
- 温室設備の購入はすでに実施済み。
- 温室内で野菜を生産するために、電気と水をより効率的に使用するための研究開発を進めている。

### 効果

受益者は、家庭で実践できる理論的なトレーニングを受け、家庭での野菜購入のコストを削減することができました。温室の研究開発は、温室が稼働すれば、革新的なアイデアが検証され、すぐにでも実行に移せるということです。

## 19. TI RAYONS SOLEIL

プチベルエールにある「Les Ti Serins Ecole Maternelle (レ・ティ・セラン・エコール・マテルネル)」の改修工事を行います。

### 活動・成果

当基金の支援により、就学前の学校の改修が完了し、2022年6月から2〜4歳児を対象に学校が始まりました。2023年1月には、さらに15人の受益者が入校する予定です。

活動の一例は以下の通り。

- <保護者のエンパワーメント支援プログラム> 学校と家庭の関係を強化し、保護者の日々の苦勞を助けるための戦略を立案
- <心理的サポートプログラム> 子どもたちの適応能力に関する観察と個別セッションを行い、子どもたちをより深く知り、自己表現するための安全な空間を提供する
- <ヘルスケア支援プログラム> 子どもたちに自分の体や健康衛生について教える



### 効果

学校と家庭の関係は、さまざまな戦略を実施することで強化され、ソーシャルワーカーや心理士の支援により、子どもたちの家庭や学校の環境が改善されています。

## 20. Vallée de Ferney Conservation Trust

ファーニー谷の固有種や絶滅危惧種の植物の絶滅リスクを低減させます。



### 活動・成果

活動の一例を紹介します。

- 2850㎡の除草を実施。
- Manglier Vert (マングリエ・ヴェール)の希少種10個の繁殖
- 固有植物の開花・発芽カレンダー開始
- 希少植物探索の企画

### 効果

プロジェクトの主な効果は、絶滅危惧種の繁殖と、保護区が一般に公開され、ガイドは自然保全に関する情報提供や基金の活動に関する研修を受けることができます。日当たりがよく、局所的に温暖な下部の苗床で、よく、早く育つ種もあります。これは、増殖成功率を高めるために有効な観察結果です。

苗床で背の高い植物を育て、特に急な斜面では、根を強く張ることで大雨の際にも植物が生き残れるようにします。

植林：固有種・在来種を合計350本植樹しました。(うち絶滅危惧種12種を含む88本)

## 21. Youth with Disabilities Empowerment Platform (YWDEP)

障害のある若者を対象に、果物や野菜、植物を栽培するトレーニングを実施しています。



### 活動・成果

同団体は、受益者と共に数々の活動を行いました。

- 小学校の子どもたちと一緒にガーデニングを楽しむ休日アクティビティの実施
- Precious Plastic社への訪問と協働活動
- Wooton Agricultural Center (ウートン・アグリカルチャー・センター)訪問
- F.A.L.C.O.N.訪問
- 親子で楽しむ家庭菜園ワークショップの実施
- MBCとの啓発キャンペーン「Tous Égaux (トゥーエゴウ)」プログラムの実施
- 他のNGOとの協働に成功  
- Precious Plastic Mauritius, Mahébourg Espoir, F.A.L.C.O.N (知識と情報の交換)
- 親子で楽しむ家庭菜園のワークショップを実施
- ドラム缶でガーデニング研修の受講と実践  
- ドラム缶に雨水を溜めて、雨が降っていないときは、ペットボトルに水を溜めておいて、植物に水を与える。

### 効果

プログラムは、さまざまな受益者を支援するだけでなく、ライフスキルについての気づきも与えています。他のNGOと協働することで、協会はアクアポニックス・プロジェクトとガーデニングの技術を拡大することができたのです。

## 22. Mahébourg Espoir Kindergarten

同団体は、恵まれない環境にある23人の子どもたちに、シテ・ラ・ショーの村から幼稚園までの送迎を手配しました。また、プロジェクトでは、学校の時間帯に毎日朝食と昼食を提供しました。

### 活動・成果

- 子どもたちの毎日の送迎。
- 朝食と昼食を毎日提供。

### 効果

子どもたちは学校で教育を受け、親は仕事を見つけて家族の収入を確保することができます。また、親は子どもの食費を節約することができます。Mahébourg Espoirを通じて、子どもたちは質の高い教育を受け、将来のための良い基盤を築くことができます。

## 不測の事態により未着手となったプロジェクト

### Development Practitioners in Network

南東部地域の8つの村の不安定な状況にある女性たちが、家庭の状況を改善できるよう、トレーニング等の支援実施。

**UPDATE:**同プロジェクトの立ち上げには多くの未解決の要因があるため、当基金からの、助成給付には踏み切れませんでした。

### Ocean Connect

マングローブの森づくりによるマングローブと貝の養殖場のコミュニティ再生を行う。

**UPDATE:**同団体は、住宅・土地省からの政府認可取得ができず、プロジェクトを立ち上げる事が叶いませんでした。

### Pointe Jerome Sailing School and Club

恵まれない環境にある60人の子どもたちで構成されるクラブの宿泊施設と設備用のコンテナを設置。

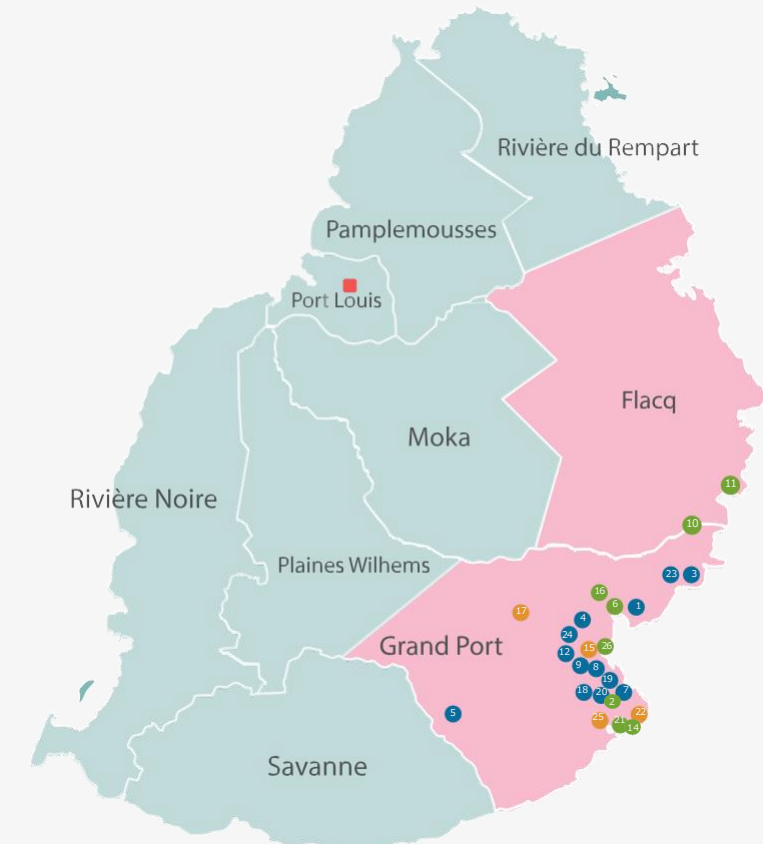
**UPDATE:**同団体は、住宅・土地省および、ポワント・ジェロームからの政府認可取得ができず、プロジェクトを立ち上げる事が叶いませんでした。

### Zenes San Frontyer

音楽の道を歩む若者のための音楽学校の設立。

**UPDATE:**同団体の管理上の問題から銀行口座を開設することができなかったため、当基金では、同プロジェクトへの助成給付が叶いませんでした。

## プロジェクト実施に基づく効果



- |  |  |   |
|--|--|---|
| 1. Association pour le Développement Durable (ADD)<br>- グランポート | 11. EcoMode Society<br>- ポワント・オー・フィユ付近                                 | 18. Mouvement Bien-Etre de la Cite la Chaux (MBECC)<br>- シテ・ラ・ショー   |
| 2. Eco-Sud<br>- ヴィル・ノワール                                       | 12. Bonheur Associé Aux Enfants<br>- シテ・ボウ・パロン                         | 19. Youth With Disabilities Empowerment Platform (YWDEP)<br>- マエブール |
| 3. F.A.L.C.O.N Association<br>- フラック                           | 13. Marine Megafauna Conservation Organisation (MMCO)<br>- ブルーベイ       | 20. La Chaux Mahebourg Academy Football Club<br>- シテ・ラ・ショー          |
| 4. Action Familiale<br>- ヴィル・ノワール                              | 14. Mission Verte (Fondation Ressources et Nature)<br>- 南東部全域          | 21. Pointe d'Esny Sanctuary Foundation<br>- ポワント・デスニー、ブルーベイ         |
| 5. RESPECT<br>- マール・タバ、ローズベル                                   | 15. Pointe Jerome Sailing School and Club (PJSSC)<br>- マエブール・ウォーターフロント | 22. Zenes San Frontyer<br>- ポワント・ジェローム                              |
| 6. Fondation Ressources et Nature (FORENA)<br>- ファーニー溪谷周辺      | 16. Vallée de Ferney Conservation Trust<br>- フェルニー                     | 23. Caritas Ile Maurice<br>- 南東部全域                                  |
| 7. Ti Rayons Soleil<br>- シテ・ラ・ショー                              | 17. DPIN-Development Practitioners In Network<br>- リッシュ・アン・オー          | 24. Mahebourg Espoir<br>- ヴィル・ノワール                                  |
| 8. Biodiversity Preservation<br>- マエブール                        |  | 25. Ocean Connect<br>- シテ・ラ・ショー                                     |
| 9. Loreto College<br>- マエブール                                   |  | 26. Precious Plastic Mauritius<br>- ポワント・ジェローム                      |
| 10. Mauriwood Film Industry Artists Association<br>- 南東部全域     |  |   |

● ソーシャルプロジェクト

● 環境関連プロジェクト

● 助成なし

※団体名の下は活動場所（地名）を記載

## 2021-2022年 年間活動報告





## 現場支援



### 2021-2022年 年間活動報告

#### 2022年3月18日 Eco-Sudのアグロエコロジーセンターで ワークショップ開催

食料自給率の向上は、当基金のモーリシャスにおける使命で、主要な目的の一つです。この目標を達成するため、当基金では初年度は、島の南東部で行われる数々の持続可能な農業プロジェクトに資金援助を行いました。3月18日(金)、ヴィル・ノワールのEco-sudアグロエコロジーセンターで、さまざまな関連NGOの代表者による会議が行われ、F.A.L.C.O.N Association、Association for Sustainable Development、FORENA、RESPECTの団体が出席しました。分かち合いと連帯の精神に基づき、参加者は持続可能な農業に関するさまざまな経験を共有し、それぞれのプロジェクトについて語り、持続可能な農業技術や方法について情報を交換することができました。そして、栽培技術、土壌、コンポスト、栽培する植物、季節など、さまざまな角度からディスカッションを行いました。当基金では、それぞれの団体を協力的に結びつけることで、各プロジェクトの成功確率を高め、南東部における活気に満ちた健全な農業コミュニティの構築に貢献したいと考えています。

#### 2022年4月7日 マングローブ関連の活動を行う団体の 共同会議開催

マングローブ林の保護に取り組むNGOの代表者数名を招き、この分野で40年以上の経験を持つ日本を代表する科学者、宮城豊彦教授と対談を行いました。会議は、La Valley de Ferney Conservation Trustの主催で、レストラン、フアレーズ・ルージュで開催されました。

会議に出席したNGOは、Vallée de Ferney Conservation Trust、Fondation Ressource et Nature (FORENA)、Reef Conservation Society、Ocean Connect、Pointe d'Esny Sanctuary Foundation、Association pour le Développement Durableの5団体です。

各代表は、宮城教授に自分のプロジェクトを発表しました。宮城教授は、この機会にマングローブの種類やその重要性について、豊富な知識を披露していただきました。マングローブは、ラグーンとその生物多様性の保全だけでなく、浸食や海面上昇から海岸線を保護するためにも不可欠な要素です。マングローブは、海岸や水路に沿って湿地帯を形成する海洋の自然環境であること。これらの森は主にマングローブで構成され、マングローブは気根を持つ樹木で、塩分の多い環境でも成長することができます。これらのユニークな環境は、多くの水生生物、海洋生物、沿岸生物、海洋生物の本当の繁殖場所を形成しています。

#### 2022年6月3日 教育関連団体の懇談会を開催

2022年6月3日(金)、レジデンス ボーバロンにあるBonheur Associé aux Enfantsの本部で、当基金の助成団体のうち、教育分野の団体を集めた懇談会を開催しました。各団体が自分たちのプロジェクトを紹介し、同じような目的を持つ他の団体と知り合うことが狙いです。また、MOL本社のモーリシャス環境・社会貢献チームのメンバー2名が、現地NGOの活動やモーリシャスの状況、現実、そして当基金が支援するプロジェクトの進捗状況を視察するためにオンラインで参加しました。懇談会には10を超すNGOが参加しました。

Bonheur Associé aux Enfants, Mission Verte, Precious Plastic Mauritius, Action Familiale, Zenes San Frontyer, Youth with Disabilities Empowerment Platform, Mahebourg Espoir, Biodiversity Preservation, Ti Rayons Soleil, La Chaux Mahébourg Football Clubです。懇談会を通じて、数々のプロジェクトが実りある協力関係を築き、互いに支え合い、それぞれのプロジェクトにさらなる価値をもたらしました。



#### 2022年6月8日 ポワント・ジェロームでの海岸清掃活動

2022年6月8日(水)、当基金の現地運営委員はマエプールのポワント・ジェロームで行われた清掃活動に参加しました。この清掃活動は、当基金が支援している団体のうち、Mission VerteとPrecious Plasticsが、Preskil Hotel (プレスキルホテル)と共同で開催されたものです。対象地域は海岸線の一部とその背後にあるマングローブの森で、2時間で100キロ以上のゴミを回収し、そのうち20キロはアルミ缶やペットボトルを中心にリサイクルされました。

2022年6月16日 - 2022年6月17日  
**Caritasプロジェクト第1期終了式典に出席**

当基金は、6月中旬にマエプールのノートルダム・デ・ザンジュ教会で行われた「Caritas Mauritius」プロジェクトの第1期振り返りセッションに参加しました。プロジェクトは、マエプール、ビュー・グラン・ポート、トル・ド・デュース、ビュー・ベル・エアの各地域を対象としており、主に弱い立場にある人々の就業能力を向上させることを目的としていま



す。課題としては、参加者が自分に自信を持ち、良好なコミュニケーションの習慣（話す前に理解する、より良いコミュニケーション、問題解決など）を身につけること、そして最後に日常生活で役立つこと（家計の準備、仕事の責任を持たせるなど）を教えることにあります。同セッションのハイライトは、プロジェクトの受益者数名からのスピーチで、出席者全員の心を揺さぶる感動的なスピーチでした。

2022年7月26日  
**ボワ・デ・ザムレットとアンス・ジョンシエでのマングローブの清掃活動に参加**

7月26日の「マングローブの保護のための国際デー」にあたって、当基金が支援する団体の一つである Association pour le Développement Durableが、ボワ・デ・ザムレットとアンス・ジョンシエにて清掃活動を行いました。清掃活動には、ADD、ボワ・デ・ザムレットVCA、グラントポート地区協議会、フラック地区の地元団体など、さまざまな組織から約100人が参加しました。An Angel、New Invaders Club、当基金の地元運営委員の他、地域のボランティアも参加しました。在モーリシャス日本国大使館からは駐モーリシャス日本国特命全権大使、川口周一郎氏をはじめとする8名の職員も参加しました。清掃活動だけでなく、マングローブの生態系に関する市民への啓蒙活動も行われました。当日、大変多くのゴミ袋には、プラスチックを中心にさまざまな種類のゴミが集められました。



2022年8月16日  
**モーリシャスでマングローブ保全に取り組む ISMEによる研究発表会を開催**

8月16日（火）、バンブー・ヴィリュエのレストラン「La Case du Pêcheur」にて、国際マングローブ生態系学会（ISME）の日本代表とマングローブの保全に取り組む地元団体を集めた、マングローブをテーマにしたワークショップを開催しました。ワークショップは、日本に拠点を置く公益信託 商船三井モーリシャス自然環境回復保全・国際協力基金の「マングローブ生態系の保全・回復と持続可能な利活用への人材育成・技術支援」プロジェクトの支援により実現したものです。

ワークショップの目的は、情報を共有し、ISMEと地元の団体とで交流し、将来のコラボレーションにつなげることでした。ISME代表団として、事務局長の馬場茂幸教授、主任研究員の宮城豊彦教授、古川恵太博士、水文学とレーザーリモートセンシング「LIDAR」の専門家である山本篤也氏が出席しました。地元団体は、Fondation Ressources et Nature (FORENA)、Ocean Connect、Reef Conservation、la Vallée de Ferney Conservation Trust、Association pour le Développement Durableが参加しました。ワークショップでは、マングローブの国際的な専門家である宮城教授が、マングローブ生態系に関する最新の研究の概要を説明し、ラグーンの動植物や沿岸の保護にとって極めて重要なこの自然地域の特徴に焦点が当てられました。

2022年8月19日  
**MMCOによるトレーニングプログラム終了式に出席**

The Mauritius Marine Conservation Organisation (MMCO)は、南東部の人々を対象としたマリンアクティビティトレーニングプログラムを終了しました。プログラムには、ダイビングコース、イルカ&ホエールウォッチングコース、生物多様性トレーニングコースが含まれています。組織の目的は、同地域の住民に、海の世界の素晴らしさ、その脆弱性、保護の重要性を知ってもらうことでした。8月19日にブレスキルホテルで行われた式典では、当基金の地元運営委員も参加し、約60名の参加者に修了証が授与されました。



2022年9月2日  
**MOLチャリタブルトラスト、2022-2023年度第二次助成対象プロジェクト募集を開始**

当基金は、2021年9月に第二次助成対象プロジェクト募集を開始しました。当基金では、選定されたプロジェクトに対し、1件あたり、年間最大100万ルピーを限度に、12カ月間にわたり約2000万ルピーを融資します。プロジェクトは、今後12ヶ月間、当基金が掲げた10つの目的のうち、少なくとも1つに沿うものでなければなりません。

2022年10月15日  
**「MOL VANSOUET」号進水式**

Mouvement Bien-Être Cité La Chaux (MBECC) が当基金の助成を利用し建造した漁船「MOL VANSOUET」号が10月15日（土）、駐モーリシャス日本国特命全権大使川口氏、MBECCの代表者、当基金の現地運営委員、プロジェクト受益者らが出席し、Centre Social de Cité La Chaux (シテ・ラ・ショー・ソーシャルセンター)で正式に進水式が行われました。このロングライナー船によって、地元の漁師たちは外洋にアクセスできるようになり、漁業でより良い生活を送ることができるようになります。「MOL VANSOUET」号の進水式は、日本の伝統である神酒式形式で行われ、漁師たちはシャンパンで新しい「仕事道具」を洗礼する進水式が行われました。



2022年10月15日  
**La Chaux Mahébourg Football Clubによる子供たちへのサッカー用品寄贈式典に参加**

10月15日（土）、シテ・ラ・ショーのソーシャルセンターで、La Chaux Mahébourg Football Clubの若いサッカー選手たちに用具が贈呈されました。寄付されたのは、シャツ、ショーツ、ソックス、シューズ、ボール、ゴール、ハードルなどです。同クラブのプロジェクトは、シテ・ラ・ショーの若者たちに、薬物やアルコールなど、非行から目を背け、健康的な活動と情熱を提供することです。スポーツ指導だけでなく、生活規律を身につけさせ、未来を築くことを目的としたトレーニングも定期的に行っています。現在、6歳から15歳までの62人の子どもたちが所属しています。





# 助成対象 プロジェクト 団体代表者の声



当基金との仕事は本当に楽しいものでした。チームは非常に迅速で、プロフェッショナルかつダイナミックです。プロジェクトの実行が困難な場合もありますが、チームは辛抱強く、理解を示してくれます。プロ意識と透明性を保ちながら、常にオープンなコミュニケーションをとってくれます。来年度のプロジェクト提案もしましたし、今後も一緒に仕事をしていきたいと思っています

**Association pour le Développement Durable**  
-ブラカシュ・ジャドゥー氏



当基金のおかげで、私たちはプロジェクトを立ち上げ、子どもたちに有効な教育の機会を提供することができました。基金の皆さんと一緒に仕事ができ本当によかったです。素晴らしい機会を与えてくださり、1年を通して多くのサポートをいただき、事務的な手続きなどでも大変助けていただきました。子どもたちのため、そしてシテ・ラ・ショーのために、このような支援をしていただき、近隣の方々に大きな変化をもたらすことができ、大変感謝しています。シテ・ラ・ショーでは初めての出来事でした。

**Cité La Chaux Mahébourg Football Club**  
-パーシー・カイスラー氏



すべてがうまくいったと思います。MOLチャリタブルトラストの支援が得られたことは、私たちにとって大きなチャンスでした。活動開始から二年未満の団体であることから、資金やスポンサーの獲得に苦労しました。特に、食料品やガソリンが値上がりしている現状では、なおさらです。寄付も少なくなりました。例えば、以前は100ルピーで2本のオイルを用意できましたが、今は1本しかありません。商船三井の協力で何とか活動を続けることができ、学校支援プログラム「アフタースクール」など、新しいキャンペーンも実現できました。これは、MOLチャリタブルトラストと「I61財団」の支援により実現したものです。この支援によって、私たちは自信を持ち、使命を遂行するための少しの余力を得ることができたのです。

**Cité La Chaux M Bonheur Associé aux Enfants**  
-シンディ・コンスタンス・ザミール氏



MOLチャリタブルトラストの貴重な支援と援助がなければ、Precious Plasticの今日の姿はなかったでしょう。MOLトラストの支援により、2022年はPrecious Plasticの活動にとって転機となることが証明されました。ダイナミックな人材で構成された意欲的なチームによって強固な基盤が築かれ、新しいプロジェクトやパートナーシップの創出と発展が実現したのです。MOLチャリタブルトラストは、この地域で志を同じくするNGOをまとめる役割を担っており、その結果、地域が恩恵を受けることになったことに非常に感謝しています。

**Precious Plastic Mauritius**  
- クレア・スタウト氏

何よりも充実した体験でした。そして、この協働がさらに継続することを願っています。MOLチャリタブルトラストのチームはもちろん、「I61 Foundation」や他のNGOのチームも本当に素晴らしいです。基金の皆さんは、私たちの仕事が必要であることを知っているの、私たちに信頼と理解を示してくれます。このドキュメンタリーの最終結果をMOLチャリタブルトラストに提出するのを楽しみにしています。彼らはいつも私たちにある種の自由を与えてくれ、そのおかげで私たちは進歩することができるのです。

**Mauriwood Film Industry Artists Association**  
- ダニー・アジョージャ氏



私たちは、特に、MOLチャリタブルトラストと協会との契約締結のためのミーティングや、その後、他の協会受益者と知り合うまでの間、私たちは当初より十分に支援を受けていると感じていました。私たちは、MOLチャリタブルトラストのチームとの友好的な関係、プロジェクトに対する関心の高さ、活動に対する定期的なモニタリングに感謝します。

**Mission Verte**  
- セバスチャン・ラフレ氏

MOLチャリタブルトラストに感謝します。チームの皆さんのおかげで、本当に充実した時間を過ごすことができました。親子ともども、私たちの話に耳を傾けてくれました。彼らの協力と支援で実現した多くの身体的、社会的、感情的、知的活動により、マエブール・エスポワールの子供たちは発達と充実を得ることができました。



**Mahebourg Espoir**  
- フランセット・ジャンヌ氏

Marine Megafauna Conservation Organisation (MMCO)は、EDUCプロジェクト—モーリシャス南東部の住民約60人に豊かな海を紹介し、参加者の新しい考え方を育み、海洋資源を利用する際の責任感と持続可能性を高め、地元の人々を保護活動に参加させ、新しい職業への展望を開くことに貢献すること—を実施する機会を与えてくださったMOLチャリタブルトラストに心より感謝いたします。MOLチャリタブルトラストには、資金提供だけでなく、支援と関与に感謝します。プロジェクト実施中は、片時も肩身の狭い思いをすることはありませんでした。



**MMCO**  
- ユーグ・ヴィトリー氏

2020/2021年の「WAKASHIO」号座礁事故後、Caritas Ile Maurice Mauritiusが東部・南東部で同行した人々の多くが、基礎訓練の必要性を訴えています。MOLチャリタブルトラストの「弱者自立のための技能開発プログラム」からの資金援助により、Caritasトレーニングセンター（モーリシャス資格認証局）は、約100名の参加者に機能的リテラシー、自己啓発、パティスリーやベーカリーのコースを提供することが可能になりました。MOLチャリタブルトラストのメンバーがプロジェクトのモニタリングに個人投資しているなど、このパートナーシップに感動しました。参加者との評価セッションの際にも、彼らの存在はありがたかったですね。Caritas Mauritiusを代表して、MOLチャリタブルトラストの信頼と、東・南東部地域の人々のために奉仕する私たちの側にいてくれたことに感謝したいと思います。



**Centre de Formation, Caritas Ile Maurice**  
- ジョシアン・ラボンテ氏







**Contact us**

Address: Level 4, Alexander House, 35 Cybercity, Ebene 72201, Mauritius

Phone : + 230 468-6257

Email : [mol\\_charitable\\_trust@molgroup.com](mailto:mol_charitable_trust@molgroup.com)